



日本三大囃子の佐原囃子と
絢爛豪華な大人形山車14台

ユネスコ無形文化遺産

国指定重要無形民俗文化財

江戸優り

佐原の大祭

秋祭り

令和6年10月

11日 金

12日 土

13日 日



◆期間中、利根川河川敷特設大駐車場から祭り会場まで「シャトル舟」運航・「シャトルバス」を運行(有料)◆

香取市観光と祭り写真コンクール作品募集

- ◆部 門 2部門制 ★祭りの部(夏祭り及び秋祭り期間中の作品)
★観光の部(通年の作品)
- ◆締 切 10/31(木)必着
- ◆応募方法 (一社)水郷佐原観光協会HP(<http://www.suigo-sawara.ne.jp>)から
データ応募サイト「トップページ」より「新規利用登録」を行い
作品応募専用ページで必要事項を入力。
- ◆問い合わせ 香取市佐原イ74-31 (一社)水郷佐原観光協会
TEL:0478-52-6675

佐原の大祭実行委員会・佐原山車行事伝承保存会

お問合せ

- 香取市商工観光課……………☎0478(50)1212
- (一社)水郷佐原観光協会……………☎0478(52)6675
- 佐原商工会議所……………☎0478(54)2244

★お祭り本部
11日(金)~13日(日) TEL.0478-50-2111

NPOまちおこし
佐原の大祭振興協会

佐原の大祭実行委員会



令和7年佐原の大祭開催予定 ●夏祭り/7月11日(金)・12日(土)・13日(日) ●秋祭り/10月10日(金)・11日(土)・12日(日)

佐原の大祭 秋祭り見どころ情報

今年の秋祭りの山車運行は、**3日間『乱曳き』**となり、各町で定めたコースを「佐原囃子」の調べに乗って山車が曳き廻されます。乱曳きの途中で祝儀を受けると、お礼として家の前で山車を止め軽快な手踊りが披露されますが、この手踊りは江戸時代の手古舞の流れをくむものと言われています。また、山車が「佐原信金ステージ広場」前を通過する際にも広場ステージ上で手踊りが披露されます。

夜になると提灯やぼんぼりを飾り立て、お祭りはより一層の盛り上がりを見せます。

勇壮な「のの字廻し」が指定場所(次ページ参照)において随時行われます。

最終日には、『お神輿の渡御行列』が行われます。

9:00に諏訪神社御旅所(セブンイレブン佐原駅前店駐車場)を出発したお神輿は、一日かけて町中を練り歩き、18:00頃諏訪神社に戻ります。



11日
(金)

- 10:00～ 山車乱曳き(山車14台)
- 15:00～ 神輿の渡御
(諏訪神社～諏訪神社御旅所)
- ◆ 随 時 のの字廻し(指定場所)
- ◆ 随 時 各町若連による手踊りの披露
(佐原信金ステージ広場ほか随所)

12日
(土)

- 10:00～ 山車乱曳き(山車14台)
- ◆ 随 時 のの字廻し(指定場所)
- ◆ 随 時 各町若連による手踊りの披露
(佐原信金ステージ広場ほか随所)

13日
(日)

- 9:00～ 神輿の渡御行列
(諏訪神社御旅所～諏訪神社)
- 10:00～ 山車乱曳き(山車14台)
- ◆ 随 時 のの字廻し※指定場所
- ◆ 随 時 各町若連による手踊りの披露
(佐原信金ステージ広場ほか随所)

勇壮な「のの字廻し」

祭り期間中、6箇所の指定場所で随時ご覧になれます。「のの字廻し」は乱曳きを行っている山車が指定場所を通過する際(不定期)に行います。
(※指定場所は次のページの地図をご覧ください。)



「のの字廻し」とは、重さ3～4トン、高さ7メートルにも及ぶ山車を、向って左前の車輪を軸として、筆で「の」の字を書くように数回転させるもので、豪快な曲曳きです。
山車上部の大人形があたかも能を舞うが如く、ゆっくり回転させることが上手とされています。

佐原の大祭情報

【300年伝統の山車祭り】

佐原の大祭は、夏祭り(7月)と秋祭り(10月)の年2回行われます。夏は小野川を挟んで東側の本宿・八坂神社、秋は西側の新宿・諏訪神社の祭礼として行われます。江戸時代、すでに「見物の群衆、人の山をなし」(赤松宗旦)と言われるほどの賑わいを見せた佐原の大祭は、なんといっても華麗な山車、哀愁を帯びた佐原囃子が特徴です。

平成16年、「佐原の大祭」が「佐原囃子」とともに、『国の重要無形民俗文化財』に指定され、また、平成28年には、『ユネスコ無形文化遺産』として「佐原の大祭」が千葉県では唯一登録となりました。

歴史的町並みが残る小野川沿いを行き交う山車の姿は、佐原の特色を生かした見どころの一つ。佐原のまちに“小江戸の賑わい”が甦る3日間です。

佐原の大祭特別番組放映

千葉テレビにて「佐原の大祭特別番組」が放送されます。

放送日:10月26日(土)19:00～19:55 再放送日:11月 2日(土)18:05～19:00



①駅前広場【場所】まゆショッピングセンター駐車場

飲食の販売や、お食事や休憩の場として利用できます。

トイレ 喫煙所

③佐原信用金庫ステージ広場【場所】佐原信用金庫本店前

佐原信用金庫・NPOまちおこし佐原の大祭振興協会によるステージ広場。飲食物の販売を行います。ステージ上では広場脇を山車が通過する際、各町のご協力により佐原囃子の手踊り披露が行われます。オーロラビジョンでは、山車の曳き廻しの様子を放映します。

喫煙所

②コンパスお祭り広場【場所】みんなの賑わい交流拠点コンパス駐車場

飲食の販売や、お食事や休憩の場として利用できます。

地元のお店やキッチンカーが大集合します。佐原囃子のCD・本等の販売もあります。

トイレ

④ぶれきめら休憩広場【場所】忠敬橋付近駐車場

キッチンカーによる飲食の販売を行います。

休憩の場としてもご利用ください。

町並み観光トイレ 喫煙所

佐原囃子

山車の運行に合わせ、時に華やかに、時には優雅に演奏される佐原囃子は、情緒的なメロディーが特徴で、楽曲のレパートリーも豊富。使用される楽器は、篠笛・大鼓(大皮)・小鼓(鼓)・附締太鼓(ツケ)・大太鼓・鉦の6種類と数多く、和楽器のオーケストラとも呼ばれています。

大人形

江戸時代後期から昭和初期にかけて江戸、東京で活躍した名工、鼠屋福田万吉、安本亀八、大柴護豊などの人形師たちによって制作された身の丈5メートルにも及ぶ大人形が山車の最上部に飾り付けられています。現在ではこのような大人形をつくれる職人はいないと言われ貴重な文化遺産となっています。

彫刻

山車の周囲には櫓材で制作された関東彫りの重厚で豪華な彫刻が飾り付けられています。制作は、後藤、石川、立川などの江戸の名工いわれた彫刻師により手掛けられ、構図は一般的な龍や花鳥、獅子だけでなく、日本神話や軍記物、中国の故事など様々なものがあり、登場する人物は表情豊かで躍動的に彫られています。



佐原の大祭

秋祭り「伝統の山車14台紹介」

佐原の山車の大人形は江戸後期～昭和初期に、江戸・東京で活躍した人形師達によって制作され、現在ではこのような大木偶人形を作れる職人はいないといわれ、貴重な文化遺産となっています。

【写真説明】

- ① 山車の制作年代
- ② 飾り物の制作年代
- ③ 飾り物の制作者
- ④ 額の文字
- ⑤ 担当の下座連
- ⑥ 一口メモ

山車がどこにいますか知りたい！

山車の現在地や広場・休憩所などの確認はデジタルMAPが便利です



大楠公(楠木正成) [東関戸]



- ① 昭和10年(1935年)
- ② 昭和10年(1935年)
- ③ 大柴謹豊
- ④ 純正(じゅんせい)
- ⑤ 東関戸連中
- ⑥ 山車は柱隠しがなく四方正面を特徴とする。額の文字は荒木貞夫陸軍大將の筆。

瓊瓊杵尊 [西関戸]



- ① 昭和10年(1935年)
- ② 昭和12年(1937年)制作
- ③ 鼠屋(昭和15年飾付)
- ④ 神威赫奕(しんいかくえき)
- ⑤ 雄風會
- ⑥ 額は後藤朝光作の彫り物で飾られ、文字は明治神宮の元宮司 有馬良橋氏の筆。

浦嶋太郎 [下新町]



- ① 江戸後期
- ② 明治12年(1879年)
- ③ 鼠屋
- ④ 恩波(おんば)
- ⑤ 牧野下座連
- ⑥ 天幕は本金のしめ縄、玉簾と彫り物は歌川国芳の水滸伝をかたどり、彫りも深く重厚な感じである。

牛天神 [新上川岸]



- ① 令和5年(2023年)9月
- ② 江戸後期
- ③ 不詳
- ④ 上河岸(うわがし)
- ⑤ 潮風會囃子連
- ⑥ 藤手の彫り物は、保元・平治の乱で功を立て、剃髪して源三位入道と名のつた源頼政の図柄。

小野道風 [新橋本]



- ① 明治27年(1894年)
- ② 明治4年(1871年)
- ③ 鼠屋
- ④ 雲龍(うんりゅう)
- ⑤ 野田芸座連
- ⑥ 額の文字「雲龍」は小野道風真蹟と伝えられている。

小楠公(楠木正行) [下分]



- ① 明治28年(1895年)
- ② 昭和10年(1935年)
- ③ 大柴謹豊
- ④ 下分(しもわけ)
- ⑤ 潮来芸座連
- ⑥ 飾り物は四条畷の合戦の際、如意輪寺の壁に矢尻で群衆の句を書きつける楠木正行の姿。

鎮西八郎為朝 [王中宿]



- ① 嘉永5年(1852年)
- ② 明治15年(1882年)
- ③ 鼠屋伝吉
- ④ 富士山の彫刻
- ⑤ 和楽会
- ⑥ 彫り物は「柱隠し」といわれる技法で富士の裾野での巻狩りの様子が回っており、柱をうまく隠している。

源頼義 [下宿]



- ① 明治8年(1875年)
- ② 明治32年(1899年)
- ③ 古川長延
- ④ 誠意(せいい)
- ⑤ 分内野下座連
- ⑥ 飾り物は、山中の戦いの中で、岩を弓で砕き水を出した故事による。令和4年、人形の鎧・衣装新調。

諏訪大神 [王新町]



- ① 昭和11年(1936年)
- ② 江戸時代
- ③ 上新町区
- ④ 敬神(けいしん)
- ⑤ 鹿嶋芸座連
- ⑥ 大神を飾り、八咫鏡(やたのかがみ)の両側に旗などが置かれている。

日本武尊 [北横宿]



- ① 明治8年(1875年)
- ② 明治8年(1875年)
- ③ 鼠屋
- ④ 愛国(あいこく)
- ⑤ 源囃子連中
- ⑥ 総櫓(けやき)造りの山車。彫刻は木彫りとは思えない立体感と生命力に溢れている。

仁徳天皇 [南横宿]



- ① 明治8年(1875年)
- ② 大正14年(1925年)
- ③ 三代目 安本亀八
- ④ 高きやに登りて見れば
- ⑤ 燭(けむり)たつ民のかまどは賑いにけり
- ⑥ あらく囃子連
- ⑦ 彫刻は三国志「桃園の誓い」から始まり、名場面を10年の歳月をかけて彫り上げた大作である。

源義経 [王宿]



- ① 昭和53年(1978年)
- ② 昭和55年(1980年)
- ③ 四代目 面六 田口義雄
- ④ 智勇(ちゆう)
- ⑤ 寺囃子連
- ⑥ 堀ノ浦での源平の戦いで、勇姿をかたどっている。

神武天皇 [仲川岸]



- ① 明治29年(1896年)
- ② 明治31年(1898年)
- ③ 不詳
- ④ 博知天(ひろきとてん)
- ⑤ 佐原囃子連中
- ⑥ 三方正面造りの山車で、通し柱8本で製作。材料の櫓(けやき)は九州の玉目の一本取り。

建速素盞鳴尊 [下川岸]



- ① 明治31年(1898年)
- ② 江戸後期
- ③ 不詳
- ④ 宏遠(こうえん)
- ⑤ 清水芸座連
- ⑥ 山車は「八方にらみ」といわれる形で四方向のどちらから見ても同じ様に見える。